

# 深い学びを実現する体育科の授業づくり ～多様な関わり方の工夫を通して～ 北広島町立大朝小学校

全児童生徒数	60名 (男子30名 女子30名)
全クラス数	6クラス(特別支援級1クラス)
TEL	(0826) 82-2027

## 1 課題と目的

研究主題を「『深い学びを実現する体育科の授業づくり』～多様な関わり方の工夫を通して～」としている。広島大学・安田女子大学・広島市立大学との連携によるアンケート分析の結果、「陸上運動と表現運動の好意度が他に比べて低い」「評価の3観点の中で、思考・判断・表現に対する意識が低い」という課題が明らかになった。また、好意度と劣等コンプレックス尺度の相関関係から、「体づくり運動」と「表現運動」に重点を置くと、これらの課題改善に効果的であることが分かった。

そこで、誰もが楽しく取り組める準備運動「セットメニュー」や「多様な関わり方の工夫」の研究により、体育が好きな児童を増やす取組を行った。

## 2 主な取組の内容

- ① セットメニュー
  - ・ 運動が苦手な児童や運動に意欲的でない児童も、楽しく運動ができるための工夫。
  - ・ 授業の導入に、「本時の内容に関わるもので、楽しく、運動量のあるもの」を取り入れる。
- ② 多様な関わり方の工夫「おおあさすみさし」(合言葉)
  - ・ 多様な関わり方の工夫を「おおあさすみさし」とし、具体的な場面を校内で確認。
  - ・ 各単元で「おおあさすみさし」のめあてを児童と指導者で共有。
- ③ 体育ノート
  - ・ 体育学習後、めあてに沿った振り返りを記入。
  - ・ 自分の課題や目標を明確にし、今後に生かす。

## 3 取組で工夫したところ

- ① セットメニュー
 

運動が好きでも苦手でも、「楽しい」「やってみたい」という気持ちになるように、授業の導入に、アクティブ・チャイルド・プログラム等を参考にした「セットメニュー」

を必ず行うようにした。運動が苦手な児童も、いい表情で楽しく授業を始めることができた。

- ② 多様な関わり方の工夫「おおあさすみさし」
 

多様な関わり方の工夫の具体的な場面を全職員で共有した。体育の見方・考え方にある「する、みる、ささえる、しる」を、「おもいっきりする」「おたがいにみる」「あたたかくささえる」「さらにしる」とし、児童と教職員が共通認識をもって授業に取り組むようにした。

また、関わり合いを意識したペアやグループづくりや、「大朝版授業スタイル(セットメニュー、視点の共有、やってみる、考える・伝える、もう一度やってみる、振り返る)」に取り組んだ。

- ③ 体育ノート
 

単元の初めに、学習計画や「おおあさすみさし」の項目ごとのめあてを書いたシートを体育ノートに貼り、共通認識をもたせた。振り返りを書かせ、児童自身の課題や次への目標を明確にし、次への意欲につなげた。また、次の時間の授業構成や、指導者の見取りや評価につなげた。

## 4 成果と今後の課題

「思考・判断・表現」「劣等コンプレックス」において改善が見られた。大朝版授業スタイルの誰もが楽しく取り組める準備運動「セットメニュー」が効果的であったと考える。また、「劣等コンプレックス」の減少は「体育が好き」につながる成果と捉えている。

しかし、「体育授業の満足度」に課題が残った。今後は、児童の実態や課題に即した活動を精選し、スモールステップを大切に、「できた」「わかった」という経験の多い、満足度の高い授業作りに取り組む。

### 【成果】

「思考・判断・表現」の得点 3.31→3.49  
「劣等コンプレックス」の得点 18.18→17.53

### 【課題】

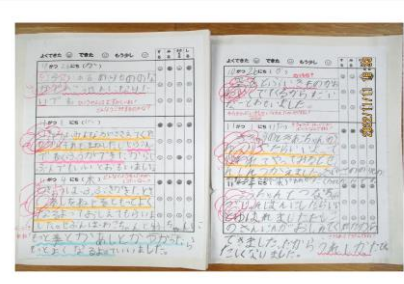
「満足度」の得点 6領域中3領域で低下



セットメニュー  
表現遊び  
「王様だるまさんがころんだ」



多様な関わり方  
関わり方を意識したグループ  
「考えた作戦を使ってゲームをしよう」



体育ノート  
記述とアンケート記入  
「〇〇ができるようになりたいな」